令和６年度 全国高校生体験活動顕彰制度　「地域探究プログラム」

オリエンテーション合宿 in 室戸【むろとをタタキおこそうプロジェクト】

１．事業の概要（個別参加型で実施）

① 事業の趣旨

宿泊を伴うオリエンテーション合宿を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、課題に向き合う力などを養う。

② 実施期間

令和６年８月 22 日（木）～8 月 24 日（土）

③ 参加者

高校生７名（高知県１名・徳島県４名・千葉県２名）

④活動日程

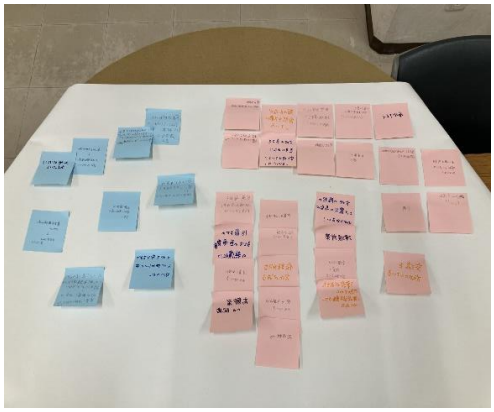
	８月２２日（木）	８月２３日（金）	８月２４日（土）
午前		起床・朝食 講義・演習④「行動計画の基礎」 フィールドワーク②「地域課題の探究」 場所：吉良川の町並み、椎名地区	起床・朝食 フィールドワーク①「地域の魅力を発見」 【伝統！クジラ船競漕を体験しよう！】 講義・演習③　「地域課題の探究」 【みんなでむろとをタタキおこそう！】
午後	受付（１２：００～）・昼食） 開講式・ガイダンス 講話「地域づくりの実践」 【わたしの見つめる、むろと】 講義・演習①「地域理解」	昼食【地元スーパーのおいしい！お弁当】 フィールドワーク①「地域の魅力を発見」 【むろと廃校水族館で学ぼう！】 講義・演習②「課題解決の基礎」 【むろと廃校水族館の、これまでとこれから】	昼食 発表② 講義・演習④「行動計画の基礎」 実践活動のためのガイダンス・閉講式 解散・バス出発（１５：３０）
夜	夕食【野外炊事体験：焼き肉！！】	夕食【むろとの魅力たっぷり！お弁当】 講義・演習③　発表①「地域課題の探究」 【むろとを見て、体験して感じたこと】	

２．事業の様子

<1 日目>

高知県、徳島県内全ての県立高等学校への広報により集まった 5 名と機構本部による関東圏への告知により参加した 2 名を合わせて計 7 名の参加者での事業実施となった。開講式・ガイダンスの後、講話「地域づくりの実践」【わたしの見つめる、むろと】にて、室戸市地域おこし協力隊の川口真委氏、遠枝澄人氏、石原光氏のお三方からお話をいただいた。それぞれの地域おこしのミッションに関わる取り組み・成果・課題や、地域の方々から上がってきた声など、地域に根差して活動する方のリアルな目線でお話を聞くことができた。この講話により、高校生の中で「地域おこし」へのイメージが具体的になっていたように思う。続く講義演習①「地域理解」では、地域おこし協力隊の方々の講話や「室戸市市勢要覧」等の資料を参考に、現時点での自分たちが考える室戸の魅力や課題を付箋に書いて共有し、整理した。それぞれの参加者の中で、翌日のフィールドワークにおける着眼点を見つけることができた。

講義終了後、夕食を兼ねた野外炊事研修体験を行った。食材の準備や火おこし、調理などそれぞれを参加者が協力して実践し、和気あいあいとした雰囲気での活動となった。「普段来られないところにきて、いろいろな人に出会うことができて、いい経験ができる 3 日間になりそうです。」という声も聞こえた。



<2 日目>

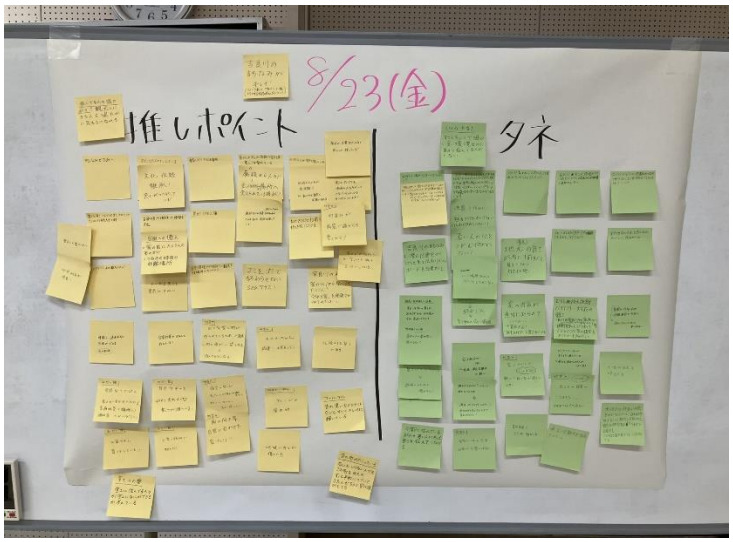
朝のつどいと朝食の後、講義演習④「行動計画の基礎」を行った。前年度までの探究アワードにおける高校生の実践活動の参照・地域おこしをするための具体的な着眼点や、考え方のプロセスを確認した。参加者の言葉で、魅力→推しポイント、課題→タネとキャッチーに言い換えるようになった。「室戸のタネから花を咲かせたいね。」と話していた。

所からバスで出発し、午前中はフィールドワーク②「地域課題の探究」にて吉良川の町並みと椎名地区を訪れた。吉良川の町並みでは、町並み保存会会長である島巻努氏のガイドにより、町並みの歴史や文化、町並みを守る方々の思いについて理解を深めた。住宅にも入らせていただき、実際の暮らしや地域の方の声にも触れられたことで、より身近に感じることができたのではないかと思う。参加者の中からは、「こんなところに住んでみたい」「こんなに素晴らしい町並みが多くの人に知られていないのはもったいない」という声が聞こえた。続いて、椎名地区を訪れた。ここでは地域おこし協力隊の石原光氏にご案内いただいた。椎名地区は漁業が盛んな地域だが、高齢化や地場産業の担い手不足などが課題となってきている。地域の方々から届く声や実際の活動について詳細に教えていただいた。砂浜に移動し、石原氏が

行っている、砂浜に流れ着いたシーグラスなどの漂着物を回収したものを使って作品作りをする「ビーチコーミング」の体験もさせていただいた。シーグラスを実際に見るのは初めてという参加者も多く、夢中になって活動する様子が見られた。活動後、「椎名集落活動センターたのしいな」内の集会スペースにて昼食を食べながら伝統的な漁具であるビン玉編み細工などにもふれることができた。

午後からはむろと廃校水族館にて活動を行った。フィールドワーク①「地域の魅力を発見」【むろと廃校水族館で学ぼう！】では館内を見学しながら水族館の展示がなぜこんなにも魅力的なのか、どのような工夫がなされているのかを考えた。学校と水族館の融合に感動しながら見学と考察を行っていた。見学後は、館内教室スペースにて講義演習②「課題解決の基礎」【むろと廃校水族館の、これまでとこれから】というテーマでむろと廃校水族館館長若月元樹氏からお話をいただいた。むろと廃校水族館開校までの道のりや、経営を含めたいろいろな物事へ取り組む姿勢、今後の展望など、なかなか聞くことのできない貴重な内容が盛り沢山であった。何かをしようとするときは、経営的な視点が非常に重要になってくる。新たな価値の創出や経営に関心のある参加者もおり、皆食い入るように話を聞いていた。若月館長のお話を聞いたことで、地域おこしの活動への解像度が格段に上がったように思えた。講義の後には飼育員体験をさせていただき、飼育員の皆様のお仕事に触れて学び、たくさんの生き物とも触れ合うことができた。

帰所後、夕食を食べた。室戸で人気の道の駅であるキラメッセ室戸の楽市さんに弁当を依頼した。中身のほとんどが室戸の食材であり、非常においしく「こんなに美味しいものばかりなんて、室戸は最高ですね」と参加者も述べており、食でも室戸の魅力を存分に感じていた。夕食後は講義演習③・発表①「地域課題の探究」【むろとを見て、体験して感じたこと】を行った。フィールドワークを通じて考えたことや感想を共有した後に、自分たちが思う室戸の推しポイント（魅力）やタネ（課題）を付箋に書き出し意見を交わした。講義の終盤には、焚火を囲んで「室戸の推しポイントをより多くの方に知ってもらうには？」というテーマで語り合った。様々な意見を交わす中で、参加者個人の思いや背景など、焚火を囲んでいるからこそ出てくる言葉がたくさんあった。素の表情や言葉を出せている参加者が多く、夏の夜ならではのよい時間となった。



<3 日目>

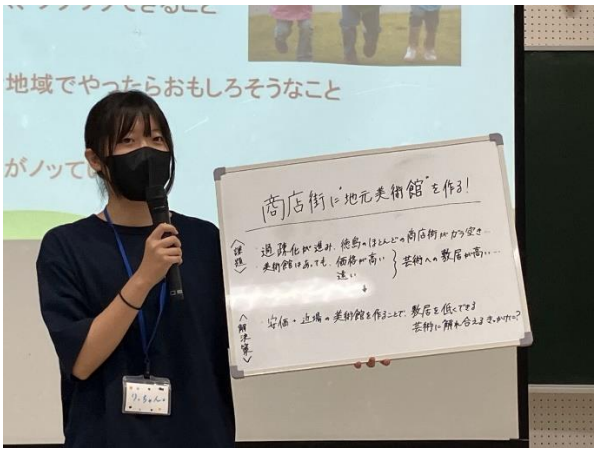
最終日は朝のつどいと朝食終了後、フィールドワーク①「地域の魅力を発見」【伝統！クジラ船競漕を体験しよう！】にて、「第 34 回土佐室戸鯨舟競漕大会」へ出場した。開会セレモニーから参加したため、室戸で実際に行われているイベントの雰囲気や、伝統を守る方々、地域を盛り上げようとする多くの方々

の気持ちに触れることができた。昔ながらの方法で櫓を漕ぐ古式部門でエントリーをしていたため、本当に進むのかどうか一抹の不安もあったが、参加者の頑張りや、地域おこし協力隊の皆様や乗船してくださった方々のおかげで無事に舟は進み、勝利することもできた。室戸の伝統と魅力を実際にやってみて感じることができ、喜びを分かち合うこともできた時間となった。

最後のフィールドワークも終了し、帰所後は講義演習③「地域課題の探究」【みんなでむろとをタタキおこそう！】を行った。ここでは 3 日間の学びや経験を活かして、室戸をさらに盛り上げるためにどのようなアプローチを行うとよいかについてグループで考え、模造紙にまとめた。推しポイント（魅力）をさらに輝かせて室戸を盛り上げる方法、タネ（課題）から花を咲かせて室戸を盛り上げていく方法など、高校生ならではのアイデアを地域おこし協力隊の皆様と協議をしながら作り上げていた。昼食後、室戸をさらに盛り上げるためのアイデアを発表した。「室戸の魅力を発見・発信してもらえるようなフォトコンテストを開催する」「特産品どうしを掛け合わせたグッズ開発・販売経路の拡大」「地域の人々が集まれる機会を創出し、地域を内側から元気にする」「魚市場を作って雇用を創出する、漁業関係者同士の連携を強化する」など、いろいろな考えがでてきた。参加者同士の質疑応答では、「実現していくためにはどのような方に協力してもらうか」「コストはどれくらいかかりそうで、どのようにすれば回収できるか」など、具体的に話し合っていた。講師の方々との関わりを通して学んだことや考えてきたことが活かされたのではないだろうか。

講義演習としては最後になる、講義演習④「行動計画の基礎」では、室戸でのオリエンテーション合宿を通して得た着眼点や地域おこしのアイデアを使って自分の住む、又は通学している地域を盛り上げる方法を考え、発表した。先程まで室戸に向けていた視点を地元地域に移すということで、少し悩んでいる場面もあったが、参加者それぞれが自分なりの視点と意図と想いをもってアイデアを出した。例えば、

「ゼロからはじめる土佐和紙～オリジナルグッズを創ってみよう～」や「傾斜と自然を感じながらジビエ料理をたのしもう」など、それぞれの感性や地元地域の個性が表れた面白い考えが次々と生まれてきた。任意の活動にはなるが、それぞれが実践活動及び報告書作成に挑戦すれば、きっとすばらしいものになるだろうという期待がもてた。



講義の最後には、早稲田大学教授であり、全国高校生体験活動顕彰制度委員を務められている沖清豪氏からご講評と参加者への応援のお言葉をいただいた。①自分事となる課題をみつけよう②現在の自分にできる「解決策」を探して実行しよう③自分の将来・キャリアとつなごうという 3 点について、参加者の様子を見ながら作成してくださったプレゼンテーションをもとに語ってくださったため、参加者の心に深く響いたのではないだろうか。このような貴重な機会を参加者の皆には大切にしてもらいたい。

最後に、実践活動のガイダンスと閉講式を行い、令和 6 年度全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 室戸「むろとをタタキおこそうプロジェクト」は終了となった。

3． 参加者の言葉

・こういった活動は初めて行った。視野が広がりました。

・自分の人生においていい経験になった。室戸がこれから活躍することを祈っています。

・室戸という地域について深く学ぶことができた。
・これからの自分の人生を変えられる気がします。
・自分がどれだけ自分の地元を知らないのかわかりました。これからはどんどん自分で考え、行動していきたいです。
・知識と体験を多く得られる貴重な経験ができてよかったです。

４．事業の成果

・高知・徳島だけでなく千葉県から 2 名の参加があり、参加者同士の関わりがより幅広いものとなった。
・個人募集型で募集したことにより、参加者の意欲が高く、活動や話し合いも充実したものとなった。
・多くの方々に講師としてお力添えをいただいたことにより、参加者にとって多くの出会いと関わりを生み出すことができた。
・「第 34 回土佐室戸鯨舟競漕大会」に出場したことにより、伝統を実際に肌で感じることができた。また、実際に地域おこしに繋がるイベントの一員となる経験ができた。
・参加者から、「自分の将来やキャリアに繋がる」という感想がでてきた。
・活動や話し合いの様子から、参加者にとって「学び」や「気づき」の多い 3 日間となった。

５．事業の課題

・募集目標が 30 名のところ、参加者は 7 名だった。広報の手段等、検討し来年度は参加者数を伸ばしたい。
・フィールドワークにおいて、まだまだ訪問したいが実現できないところもあった。カリキュラムとの兼ね合いや時間の使い方についても検討し、より充実したフィールドワークを行えるようにしたい。
・フィールドワーク以外での講義演習は国立室戸青少年自然の家の研修室で行うことがほとんどであった。例えば室戸世界ジオパークセンターのセミナールームを借用して講義演習を行うなど、国立室戸青少年自然の家も含め室戸のより多くの場所で活動できるとよいのではないか。